

加美町薬用植物研究会 活動報告

加美町薬用植物研究会

～ 薬菜の里から薬用作物を ～



加美町の概要

◇ 概要

位置:東経140度51分 北緯38度34分

海拔:46.32メートル

面積:460.82平方キロメートル

人口及び世帯数 (H30. 4 現在)

男	11,945
女	12,486
計	24,431
世帯	8,072

加美町は、宮城県の北西部に位置し、東西に約32km、南北に約28km面積は約461平方キロメートルあり、県内でも有数の面積を有しています。西部は、奥羽山脈を隔てて山形県尾花沢市に、南部は宮城県色麻町に、北部から東部にかけて宮城県大崎市に接しています。地形としては西部、北部、南部が山岳、丘陵地となっており、ブナなど豊かな森林を有する舟形山や、加美富士と呼ばれる加美町のシンボルとなる『葉葉山』がそびえています。丘陵地から、鳴瀬川、田川などが町を貫流し、その流域は肥沃な田園地帯が広がりを見せ、丘陵地帯、高原、平野部における四季折々の自然の変化が満喫できます。また、天然記念物「鉄魚」の生息する魚取沼などの湖沼が点在しております。

加美町の気候は、寒暖の差が大きく内陸型気候に属し、西部の山脈・丘陵地帯は降雪量も多く豪雨地帯に指定されております。最近5年間の平均気温は11.2℃、年間平均降水量は1,186mmあり、冬から春にかけて北西風が強い地域です。

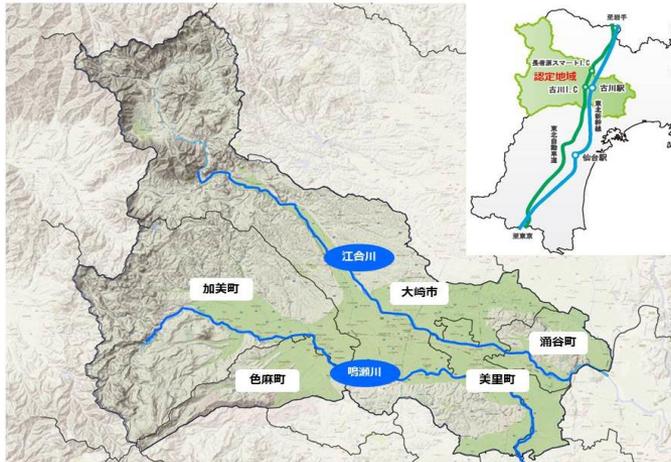


世界農業遺産認定

持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム

認定エリア

大崎地域 1市4町
(大崎市、加美町、色麻町、涌谷町、美里町)



昨年の12月12日にFAO(国連食糧農業機関)より世界農業遺産(GIAHS:ジアス)の審査結果が公表され、大崎地域が世界農業遺産に認定されました。

『持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的な水管理』は、「やませ」による冷害や洪水、渇水が頻発する厳しい自然条件の中、農業用水の確保や栽培技術、排水対策など、農業農村の営みのあらゆる場面で水を巧みに管理する様々な知恵や工夫、数多くの苦労を重ねながら、米づくりを中心とした水田農業により「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。



この伝統的で巧みな水管理によって支えられる水田農業の営みは、水田と水路、ため池、農家の暮らしを支える屋敷林「居久根」とともに、水田の持つ豊かな湿地生態系や農文化も育てており、「生きた遺産」として認定されました。

加美町薬用植物栽培の取組について

1. 薬用植物栽培への取り組むきっかけ

加美町のシンボリックな山『薬菜山』 三容が富士山に似ていることから『加美富士』とも呼ばれている。この山は、延暦23年(804)にこの地に来た坂上田村麻呂が山上に薬師三社を勧請したと言われ、それ以来この山を『薬菜山』と称するようになり、医薬の守護、病難退散、寿福招幸の山として信仰されてきた。今でも町内の古老には、病気には医者薬より『薬菜でとれる野草のせんぶりが一番効く』と語る人もいるなど、薬用植物が自生する環境があり、土壌的な面においても栽培に適した土壌であると考えられる。

加美町では、新たな作物への取組として、平成27年度より薬用植物に着目。

平成27年11月『加美町薬用植物研究会』を設立し、現在研究会で試験栽培を実施している。

(会員数:団体5団体・個人14名)

2. 薬用植物で農家所得の向上を・・・

加美町のビジョンである『善意と資源とお金循環する、人と自然に優しいまち』の総合戦略4つの柱、イカノエの「ノ」である農家所得の向上を図るためのひとつとして、薬用植物の栽培と耕作放棄地の解消に取り組んでいく。

加美町薬用植物栽培ビジョン ～薬用作物栽培による農業活性化～

- ・六次産業化
- ・地場産特産品の開発
- ・メディカルツーリズムの展開



波及効果



協力体制の構築

- 宮城大学
- JA加美よつば
- 加美町 県普及センター
- NPO法人 薬用普及みやぎ

加美町薬用植物研究会
(生産者・生産団体)

マッチング



日本漢方製薬製剤協会

日本国内の製薬製造業者、販売業者による製薬業界団体

加盟 65 社

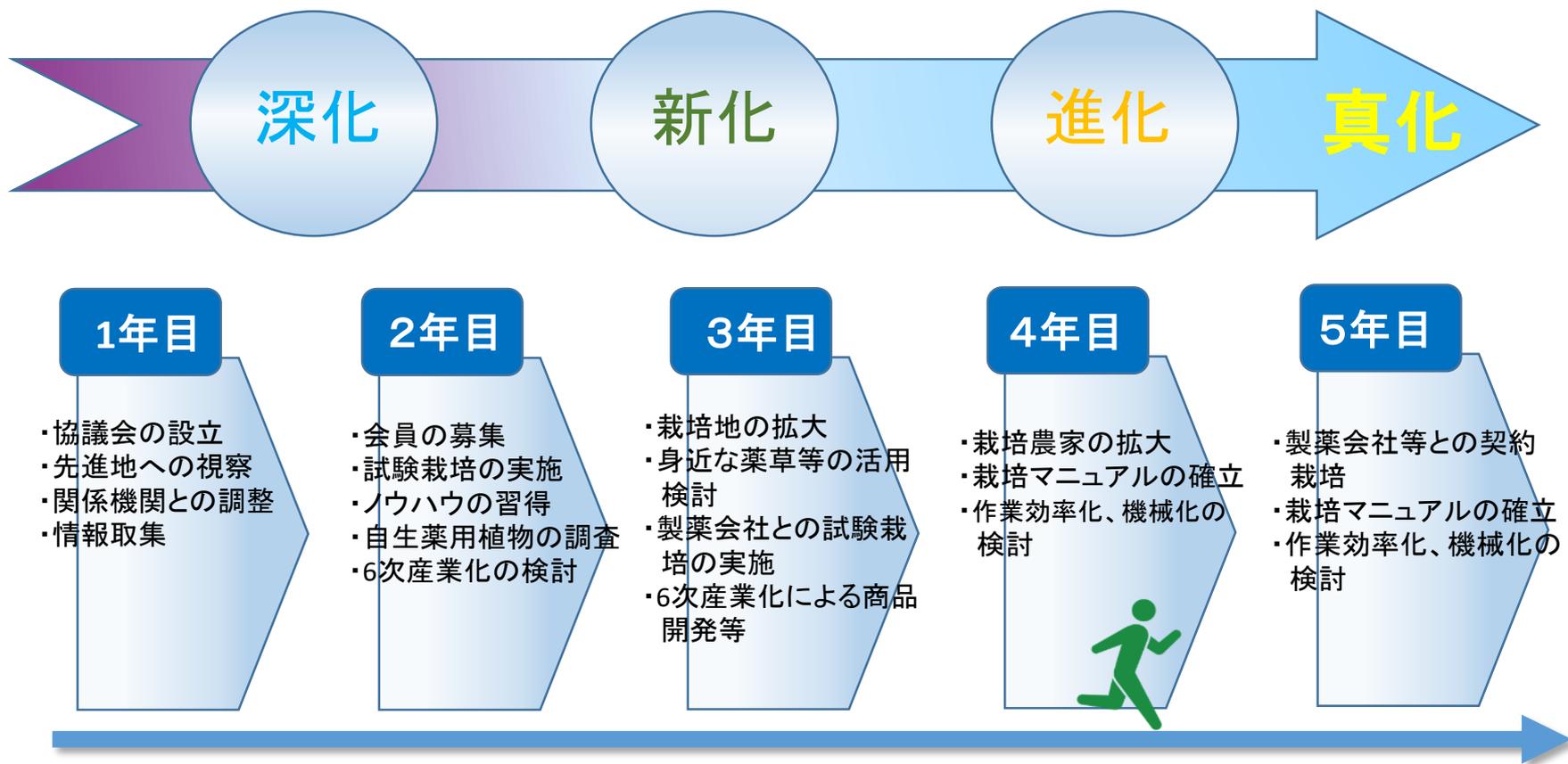
試験栽培・契約栽培



3. 薬用植物栽培の取り組みで期待できる効果等。

- 耕作放棄地、休耕地の活用により農地の活性化。
- 高付加価値農業の展開による農業所得増。
- 漢方薬メーカーとの契約栽培により安定収入。
- 健康食品等の開発、6次産業化に向けた取り組み。
- 薬用作物を活用した新商品開発による食品産業との相乗効果。
- 薬用作物を活用したツアー等による観光産業との相乗効果。
- 薬草、生薬による健康増進(民間薬の活用)。

・薬用植物栽培の取組計画



4. これまでの薬用植物研究会の取り組み

平成27年度

- 岩手県岩手町へ先進地視察。
- 栽培希望団体等を集め、打ち合わせ開催。(宮城大学地域連携センターの協力)
- 宮城県薬用植物園の管理しているNPO法人薬用普及みやぎの代表である草野源次郎氏に試験栽培の指導を依頼。
- 加美町薬用植物研究会を設立 (平成27年11月)

平成28年度

- 町内三ヶ所に試験圃場を設置 (カンゾウ、ムラサキ、コガネバナを定植)
- NPO法人薬用普及みやぎ主催「薬草セミナー」へ参加
- 薬用メーカーの担当者を招き、製薬業界の現場を講義していただく研修会を開催。
- 町内に自生している薬用植物の観察会を開催 (オウレンの自生等を確認)
- 地元小学校の協力をいただき、町有地に200本の薬木(キハダ)を植栽。
- ムラサキの根については、2次活用としての使用も検討する上で、町内染織家の協力のもと「紫紺染」の試験染職を実施。
- 収穫した薬用植物(ムラサキ等)の薬効成分の分析を実施。

平成29年度

- 薬用植物栽培ほ場拡大(7カ所)。
- 製薬会社との試験栽培実施。
- 6次産業化による新商品開発。(薬草ジェラート等)
- ムラサキの根以外の試験染織の実施(コガネバナ等)

平成30年度

- 加美町薬草園の設置。
- 薬用植物栽培に係る機械化導入の検討。
- 薬用植物試験栽培面積の拡大。
- 製薬会社との契約栽培実施。
- 薬用植物産地化に向けた地域説明会へ参加。
- 薬用植物(ムラサキ)栽培マニュアル作成。



研修会の開催



自生薬草観察会



児童とキハダ定植



試験栽培を実施



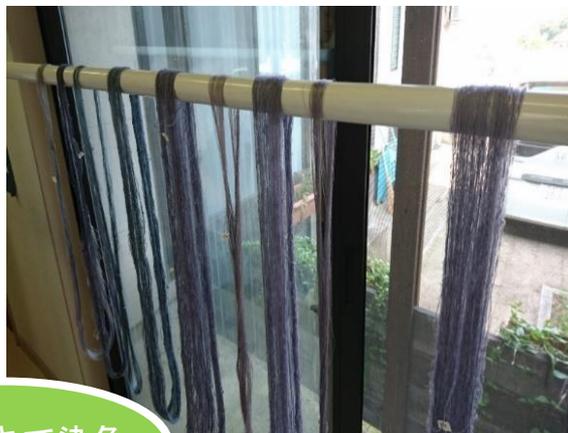
試験ほ場のムラサキ



収穫したムラサキ



ムラサキで染色



ポケットチーフ

ムラサキ(紫根)は紅花、藍と共に日本三大色素のひとつで、古代においては朝廷の最高位をあらわす高貴な色の染料として用いられた。

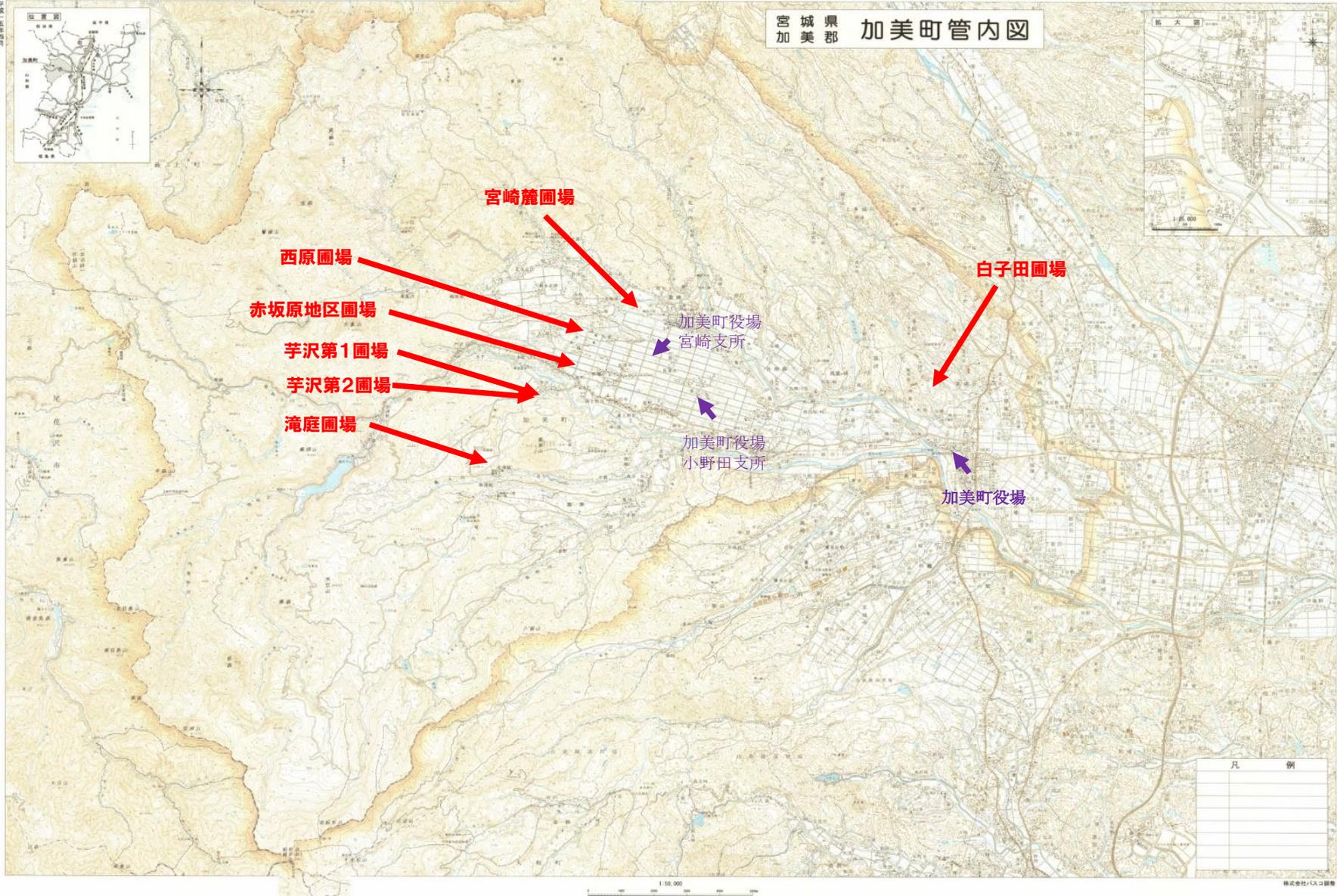
本製品は、加美町在住の染織家の協力のもと染色したポケットチーフです。



- KAMI QUALITY -
薬用植物染
むらさき草



宮城県 加美町管内図



宮崎麓園場

西原園場

赤坂原地区園場

芋沢第1園場

芋沢第2園場

滝庭園場

白子田園場

加美町役場 宮崎支所

加美町役場 小野田支所

加美町役場

凡 例	

1:50,000

5. 現在直面している課題

- ◇ 機械化などによる作業の省力化
 - 栽培管理機(トラクター、畝立機、収穫機、乾燥機)の導入。
 - 除草作業機の導入。
- ◇ 加工場(建屋、洗浄機、乾燥機)などの導入に対する支援(補助事業)
 - 乾燥機及び砂取機の導入が急務。
- ◇ 病気等の枯死による反収減
 - 枯死の原因究明が必要。
- ◇ 研究会員の確保
 - 会員の高齢化、作業労働の軽減。

6. 活動内容紹介



ムラサキ種子まき



ご清聴 ありがとうございます。